

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-99914

(P2005-99914A)

(43) 公開日 平成17年4月14日(2005.4.14)

(51) Int.Cl.⁷

G06F 17/30

F I

G06F 17/30

340A

テーマコード (参考)

5B075

G06F 17/30

110F

審査請求 未請求 請求項の数 21 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号 特願2003-329988 (P2003-329988)

(22) 出願日 平成15年9月22日 (2003. 9. 22)

(71) 出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂二丁目17番22号

(74) 代理人 100086531

弁理士 澤田 俊夫

(74) 代理人 100093241

弁理士 宮田 正昭

(74) 代理人 100101801

弁理士 山田 英治

(72) 発明者 小川 正和

東京都港区赤坂二丁目17番22号 富士

ゼロックス株式会社内

(72) 発明者 長谷 俊介

東京都港区赤坂二丁目17番22号 富士

ゼロックス株式会社内

F ターム (参考) 5B075 PP03 PP13 PQ02 PQ22 PQ46

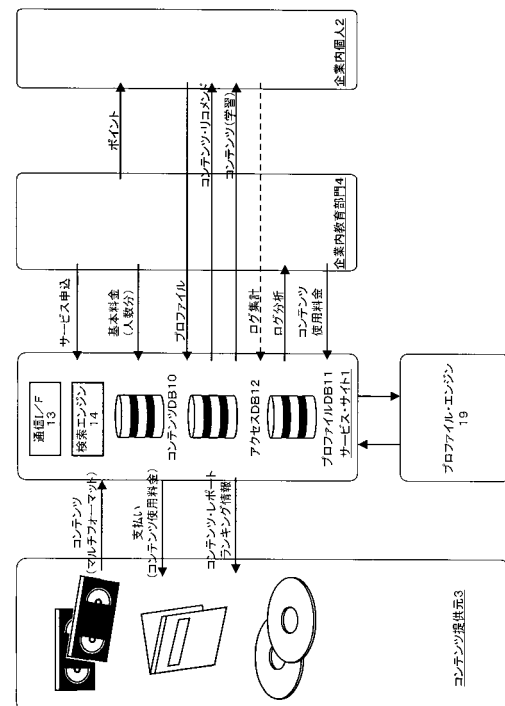
(54) 【発明の名称】 コンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラム

(57) 【要約】

【課題】 ユーザに必要性が高いと予想されるコンテンツの情報を提供することにより、ユーザによるコンテンツ選別を支援する。

【解決手段】 ユーザのプロファイリング結果に対応させてコンテンツを表示することができる。コンテンツを推薦する表示画面上では、コンテンツの属性表示の中にユーザ自身のプロフィールに特化したものを提示する項目が配設されており、ユーザは自分画が見るべきコンテンツ、見た方が良いコンテンツを差別化して表示することにより、コンテンツを視聴する際の視聴態度にも差別化意識をユーザに与えることができ、コンテンツ視聴による効果を高めることができる。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ユーザに対して推薦するコンテンツ情報を提供するコンテンツ推薦システムであって、
ユーザに提供するコンテンツを蓄積するコンテンツ蓄積手段と、
ユーザのプロファイルを取得するユーザ・プロファイル取得手段と、
前記コンテンツ蓄積手段に蓄積されている各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理するコンテンツ管理手段と、

前記ユーザ・プロファイル取得手段により取得されたユーザのプロファイルに基づいて前記コンテンツ蓄積手段から所定の基準に従ってコンテンツを検索するコンテンツ検索手段と、

10

前記コンテンツ検索手段により抽出されたコンテンツに関する推薦情報をユーザのプロファイル情報との対応関係を記述した形式で生成し、ユーザに提示するコンテンツ推薦情報提供手段と、

を具備することを特徴とするコンテンツ推薦システム。

【請求項 2】

前記ユーザ・プロファイル取得手段は、所定の設問に対して対象ユーザから入力された回答に基づいて当該ユーザを分析することを通じてプロファイルを取得する、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 3】

前記ユーザ・プロファイル取得手段は、ユーザについての少なくとも職種情報と職種についての能力情報をプロファイルとして取得する、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ推薦システム。

20

【請求項 4】

前記コンテンツ管理手段は、コンテンツが持つ職種情報との適合性並びに職種毎の適合する能力レベルに従って各コンテンツを管理する、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 5】

前記コンテンツ検索手段は、対象ユーザの職種情報並びに能力情報に適合するコンテンツを前記コンテンツ蓄積手段から検索する、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ推薦システム。

30

【請求項 6】

前記コンテンツ検索手段は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの能力レベルに相応するものを前記コンテンツ蓄積手段から検索する、
ことを特徴とする請求項 5 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 7】

前記コンテンツ検索手段は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの能力レベルに対し目標レベルとなるものを前記コンテンツ蓄積手段から検索する、
ことを特徴とする請求項 6 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 8】

ユーザの能力情報は複数の能力属性からなり、

40

前記コンテンツ検索手段は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの秀でた能力属性に関する能力レベルに相応するものを前記コンテンツ蓄積手段から検索する、
ことを特徴とする請求項 6 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 9】

ユーザの能力情報は複数の能力属性からなり、

前記コンテンツ検索手段は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの弱点とする能力属性に関する能力レベルに相応するものを前記コンテンツ蓄積手段から検索する、
ことを特徴とする請求項 6 に記載のコンテンツ推薦システム。

50

【請求項 10】

前記コンテンツ推薦情報提供手段は、検索されたコンテンツとユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に応じた推薦度を各コンテンツに付与し、該推薦度に応じてコンテンツを強弱表示した推薦情報を生成する、
ことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ推薦システム。

【請求項 11】

ユーザに対して推薦するコンテンツ情報を提供するコンテンツ推薦方法であって、
ユーザのプロファイルを取得するユーザ・プロファイル取得ステップと、
提供対象となる各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理するコンテンツ
管理ステップと、

10

ユーザ・プロファイル取得ステップにおいて取得されたプロファイルに基づいて所定の
基準に従ってコンテンツを検索するコンテンツ検索ステップと、

前記コンテンツ検索ステップにおいて抽出されたコンテンツに関する推薦情報をユーザ
のプロファイル情報との対応関係を記述した形式で生成し、ユーザに提示するコンテンツ
推薦情報提供ステップと、
を具備することを特徴とするコンテンツ推薦方法。

【請求項 12】

前記ユーザ・プロファイル取得ステップでは、所定の設問に対して対象ユーザから入力
された回答に基づいて当該ユーザを分析することを通じてプロファイルを取得する、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のコンテンツ推薦方法。

20

【請求項 13】

前記ユーザ・プロファイル取得ステップでは、ユーザについての少なくとも職種情報と
職種についての能力情報をプロファイルとして取得する、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のコンテンツ推薦方法。

【請求項 14】

前記コンテンツ管理ステップでは、コンテンツが持つ職種情報との適合性並びに職種毎
の適合する能力レベルに従って各コンテンツを管理する、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のコンテンツ推薦方法。

【請求項 15】

前記コンテンツ検索ステップでは、ユーザの職種情報並びに能力情報に適合するコンテ
ンツを検索する、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のコンテンツ推薦方法。

30

【請求項 16】

前記コンテンツ検索ステップでは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユー
ザの能力レベルに相応するものを検索する、
ことを特徴とする請求項 15 に記載のコンテンツ推薦方法。

【請求項 17】

前記コンテンツ検索ステップでは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユー
ザの能力レベルに対し目標レベルとなるものを検索する、
ことを特徴とする請求項 16 に記載のコンテンツ推薦方法。

40

【請求項 18】

ユーザの能力情報は複数の能力属性からなり、

前記コンテンツ検索ステップでは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユー
ザの秀でた能力属性に関する能力レベルに相応するものを検索する、
ことを特徴とする請求項 16 に記載のコンテンツ推薦方法。

【請求項 19】

ユーザの能力情報は複数の能力属性からなり、

前記コンテンツ検索ステップでは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユー
ザの弱点とする能力属性に関する能力レベルに相応するものを検索する、
ことを特徴とする請求項 16 に記載のコンテンツ推薦方法。

50

【請求項 20】

前記コンテンツ推薦情報提供ステップでは、検索されたコンテンツと対象ユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に応じた推薦度を各コンテンツに付与し、該推薦度に応じてコンテンツを強弱表示した推薦情報を生成する、
ことを特徴とする請求項 11 に記載のコンテンツ推薦方法。

【請求項 21】

ユーザに対して推薦するコンテンツ情報を提供するための処理をコンピュータ・システム上で実行するようにコンピュータ可読形式で記述されたコンピュータ・プログラムであって、

ユーザのプロファイルを取得するユーザ・プロファイル取得ステップと、

提供対象となる各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理するコンテンツ管理ステップと、

ユーザ・プロファイル取得ステップにおいて取得されたプロファイルに基づいて所定の基準に従ってコンテンツを検索するコンテンツ検索ステップと、

前記コンテンツ検索ステップにおいて抽出されたコンテンツに関する推薦情報をユーザのプロファイル情報との対応関係を記述した形式で生成し、ユーザに提示するコンテンツ推薦情報提供ステップと、

を具備することを特徴とするコンピュータ・プログラム。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、膨大量のコンテンツの中からユーザが必要とするであろうコンテンツを推薦するコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムに係り、特に、映画、記録映像、書籍などの電子データ化されたコンテンツを、ユーザの個人属性や適性に応じて推薦するコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムに関する。

【0002】

さらに詳しくは、本発明は、ユーザに必要性が高いと予想されるコンテンツの情報を提供することにより、ユーザによるコンテンツ選別を支援するコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムに係り、特に、ユーザ毎に見た方が良いコンテンツを差別化して推薦コンテンツを提示するコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムに関する。

【背景技術】**【0003】**

昨今、情報処理や情報通信などのコンピューティング技術が飛躍的に向上し、コンピュータ・システムが広汎に普及してきている。さらに、コンピュータ同士を相互接続するネットワーク・コンピューティング技術に対する要望も高まってきている。ネットワーク接続環境下では、コンピュータ資源の共有や、情報の共有・流通・配布・交換などの協働的作業を円滑に行なうことができる。

【0004】

近年、インターネットや広帯域通信網(xDSL: xDigital Subscriber Line、CATV(Cable TV)、無線ネットワークなど)の普及により、コンピュータ・ファイルを始めとした各種のデジタル・コンテンツをネットワーク配信することが盛んに行なわれている。また、音楽データや画像データ、電子出版物などのデジタル・データや、さらには動画像などリッチ・コンテンツの配信もユーザにストレスなく伝送できるような仕組みが整いつつある。

【0005】

また、最近では、情報処理技術や情報通信技術の向上とも相俟って、業務用、娯楽用、さらには学習・教育・訓練用のコンテンツはパッケージ化又はデジタル化されるようになってきた。例えば、ビデオやDVDなどのメディアを介して学習者に教材として届けられ

10

20

30

40

50

たりする。あるいは、教師や講師と生徒との間はネットワークによって結ばれて、遠隔地間での対話型の学習環境を提供することができる。また、教材コンテンツを例えばHTML (Hyper Text Markup Language) など情報探索空間で取り扱い可能な形態で保管したWebベースの学習システム (WBT: Web Based Training) などもある。

【0006】

コンテンツの量や質はますます豊富になってきているが、逆に、膨大なコンテンツの中から所望の若しくは必要なコンテンツをうまく引き出すことが困難な事態に陥ってきている。このため、本来は有益なコンテンツまでも、再利用できないまま埋没され、「使い捨て」若しくは「死蔵」という問題が発生してきた。

10

【0007】

例えば、法人企業における社員教育では、コンテンツ配信される種々な内容の記録映像等を利用することが考えられているが、個々の社員ユーザにとって、どのようなコンテンツを利用した教育コースが自分にとって役に立つものかを選別することは容易なことではない。すなわち、膨大な種類のコンテンツを容易に入手可能な環境においては、各個人ユーザが自分に必要なコンテンツを選別することが極めて困難となってしまう。

【0008】

従来、ユーザに対して推薦されるコンテンツのリスト表示は平面的なものが主流であり、ユーザは自分が見るべきコンテンツ、見た方が良いコンテンツの情報を得る方法はなかった。ユーザに提示される視聴可能なコンテンツのリストは、せいぜい視聴履歴の表示がユーザ毎に異なるという程度のものである。

20

【0009】

例えば、必要なときに必要な社員に対して、負担をかけずに迅速且つ低コストで社員教育を行なう教育支援システムについて提案されている (例えば、特許文献1を参照のこと)。同システムは、受給者の受給履歴情報と職務経歴情報を比較した結果を基に推薦情報と受給者毎に個別に調整された教育コンテンツを作成し、需給履歴と職務経歴情報と組織内における異動情報を含む受給者情報に基づいて、所定の時期に所定の教育コンテンツの受信を促す推薦情報を受給者端末へ送信するものである。しかしながら、受給者の職種情報や能力に基づいてコンテンツを選別するものではなく、また、推薦情報の提示方法も、受給者毎に見た方が良いコンテンツを差別化するものではない。

30

【0010】

また、インターネットなどのネットワークを利用することにより、遠隔地にある者であっても個人の能力や進度に応じてきめ細かな授業を行なう通信教育システムについて提案がなされている (例えば、特許文献2を参照のこと)。同システムによれば、受講者が達成しようとする目標を設定させ、その目標に基づいたレッスンと、スキル・チェックの診断結果とを照合し、既に習得しているスキルを削除して受講計画を作成することができる。しかしながら、受講者の職種情報や能力に基づいてコンテンツを選別するものではなく、受講者が見た方が良いコンテンツを差別化して提示するものではない。

【0011】

【特許文献1】特開2002-56107号公報

40

【特許文献2】特開2002-169456号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0012】

本発明の目的は、映画、記録映像、書籍などの電子データ化されたコンテンツを、ユーザの個人属性や適性に応じて好適に推薦することができる、優れたコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することにある。

【0013】

本発明のさらなる目的は、ユーザに必要性が高いと予想されるコンテンツの情報を提供することにより、ユーザによるコンテンツ選別を支援することができる、優れたコンテン

50

ツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することにある。

【0014】

本発明のさらなる目的は、ユーザ毎に見た方が良いコンテンツを差別化して推薦コンテンツを提示することができる、優れたコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0015】

本発明は、上記課題を参酌してなされたものであり、その第1の側面は、ユーザに対して推薦するコンテンツ情報を提供するコンテンツ推薦システムであって、

10

ユーザに提供するコンテンツを蓄積するコンテンツ蓄積手段と、

ユーザのプロファイルを取得するユーザ・プロファイル取得手段と、

前記コンテンツ蓄積手段に蓄積されている各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理するコンテンツ管理手段と、

前記ユーザ・プロファイル取得手段により取得されたユーザのプロファイルに基づいて前記コンテンツ蓄積手段から所定の基準に従ってコンテンツを検索するコンテンツ検索手段と、

前記コンテンツ検索手段により抽出されたコンテンツに関する推薦情報をユーザのプロファイル情報との対応関係を記述した形式で生成し、ユーザに提示するコンテンツ推薦情報提供手段と、

20

を具備することを特徴とするコンテンツ推薦システムである。

【0016】

ここで、前記ユーザ・プロファイル取得手段は、例えば、所定の設問に対して対象ユーザから入力された回答に基づいて当該ユーザを分析することを通じてプロファイルを取得することができる。ユーザには、例えば、「言いたいことは遠慮なく言う方か」、「自己主張する方か」などの適性を分析するための設問が提示される。そして、前記ユーザ・プロファイル取得手段は、対象ユーザについての少なくとも職種情報と職種についての能力情報をプロファイルとして取得する。ユーザの能力情報は、通常、複数の能力属性で構成される。したがって、ユーザ・プロファイルは、職種情報と、能力属性毎のユーザが持つ能力レベルという形式で記述される。

30

【0017】

また、前記コンテンツ管理手段は、コンテンツが持つ職種情報との適合性並びに職種毎の適合する能力レベルに従って各コンテンツを管理している。例えば、前記コンテンツ管理手段は、職種毎に行が設けられているとともに、能力属性の能力レベル毎に列が設けられたコンテンツ・マップ上で、各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理している。すなわち、コンテンツは、該当するそれぞれの職種の行で、該当する能力属性における能力レベルの欄にマッピングされる。勿論、1つのコンテンツが2以上の職種行上にマッピングされることもある。

【0018】

また、前記コンテンツ検索手段は、対象ユーザの職種情報並びに能力情報に適合するコンテンツを前記コンテンツ蓄積手段から検索する。前記コンテンツ検索手段は、上述したコンテンツ・マップを利用して、所望のコンテンツを効率的に取り出すことができる。すなわち、コンテンツ・マップをスキャンし、対象とするユーザの職種に該当する行上で、ユーザが要求又は必要とする能力属性の能力レベルにマッピングされているコンテンツを取り出すことができる。

40

【0019】

ここで、前記コンテンツ検索手段は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの能力レベルに相応するものを前記コンテンツ蓄積手段から検索する訳であるが、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうち、ユーザの現時点での能力レベルに対し目標レベルとなるものを、コンテンツ・マップを介して取り出すようにしても良い。例えば、

50

ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの秀でた能力属性に関する能力レベルに相応するものを選び出して、長所を重点的に引き伸ばすようにすることができる。あるいは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの弱点とする能力属性に関する能力レベルに相応するものを選び出して、弱点を重点的に強化するようにすることができる。

【0020】

前記コンテンツ推薦情報提供手段は、検索されたコンテンツと対象ユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に応じた推薦度を付与する。そして、該推薦度に応じてコンテンツを強弱表示した推薦情報を生成する。

【0021】

また、本発明の第2の側面は、ユーザに対して推薦するコンテンツ情報を提供するための処理をコンピュータ・システム上で実行するようにコンピュータ可読形式で記述されたコンピュータ・プログラムであって、

ユーザのプロファイルを取得するユーザ・プロファイル取得ステップと、

提供対象となる各コンテンツとユーザ・プロファイルとの適合性を管理するコンテンツ管理ステップと、

ユーザ・プロファイル取得ステップにおいて取得されたプロファイルに基づいて所定の基準に従ってコンテンツを検索するコンテンツ検索ステップと、

前記コンテンツ検索ステップにおいて抽出されたコンテンツに関する推薦情報をユーザのプロファイル情報との対応関係を記述した形式で生成し、ユーザに提示するコンテンツ推薦情報提供ステップと、

を具備することを特徴とするコンピュータ・プログラムである。

【0022】

本発明の第2の側面に係るコンピュータ・プログラムは、コンピュータ・システム上で所定の処理を実現するようにコンピュータ可読形式で記述されたコンピュータ・プログラムを定義したものである。換言すれば、本発明の第2の側面に係るコンピュータ・プログラムをコンピュータ・システムにインストールすることによって、コンピュータ・システム上では協働的作用が発揮され、本発明の第1の側面に係るコンテンツ推薦システムと同様の作用効果を得ることができる。

【発明の効果】

【0023】

本発明によれば、映画、記録映像、書籍などの電子データ化されたコンテンツを、ユーザの個人属性や適性に応じて好適に推薦することができる、優れたコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することができる。

【0024】

また、本発明によれば、ユーザに必要性が高いと予想されるコンテンツの情報を提供することにより、ユーザによるコンテンツ選別を支援することができる、優れたコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することができる。

【0025】

また、本発明によれば、ユーザ毎に見た方が良いコンテンツを差別化して推薦コンテンツを提示することができる、優れたコンテンツ推薦システム及びコンテンツ推薦方法、並びにコンピュータ・プログラムを提供することができる。

【0026】

本発明によれば、ユーザの職種や能力に基づいて、当該ユーザに必要性があると予想されるコンテンツが特定されてコンテンツの推薦情報が提供される。したがって、ユーザには必要性があるかと予想されるコンテンツが推薦され、これに基づいて、当該ユーザは自分にとって役立つコンテンツを容易に選別して利用することが可能となる。

【0027】

また、本発明によれば、ユーザから入力された階層情報及び職種情報、並びにユーザか

10

20

30

40

50

ら入力された回答を分析した結果に基づいて、個々のユーザに適するコンテンツを推薦するようにした。これによって、ユーザにとって必要なコンテンツの選別作業を容易化することができるとともに、ユーザにコンテンツ学習の動機付けを与えることができる。また、企業の社員教育に活用すると、社員に学習に対する動機付けを与えて、スキルアップを促進させることができる。

【0028】

さらに本発明によれば、ユーザのプロファイリング結果に対応させてコンテンツを表示することができる。コンテンツを推薦する表示画面上では、コンテンツの属性表示の中にユーザ自身のプロファイルに特化した（差別化された）ものを提示する項目が配設されており、ユーザが見るべきコンテンツ、見た方がよいコンテンツを差別化して表示することにより、コンテンツを視聴する際の視聴態度にも差別化意識をユーザに与えることができる、コンテンツ視聴による効果を高めることができる。

10

【0029】

本発明のさらに他の目的、特徴や利点は、後述する本発明の実施形態や添付する図面に基づくより詳細な説明によって明らかになるであろう。

【発明を実施するための最良の形態】

【0030】

以下、図面を参照しながら本発明の実施形態について詳解する。

【0031】

図1には、本発明の一実施形態に係るコンテンツ推薦システムの構成を模式的に示している。図示の例では、コンテンツ推薦システムは企業内教育のコンテンツ提供に適用したものであり、コンピュータ・サーバで構成されるサービス・サイト1を核として構成され、当該サーバ1に企業内個人（すなわち、社員ユーザ）がパーソナル・コンピュータ（PC）などのユーザ端末2によりアクセスして、コンテンツの推薦情報を取得する構成となっている。

20

【0032】

サービス・サーバ1とユーザ端末2とは、インターネットなどのネットワークを介して通信接続され、これらのホスト装置がそれぞれコンピュータ・ハードウェアにより所定のコンピュータ・プログラムを実行することにより、後述するような諸機能を実現してコンテンツの推薦情報の提供や取得に係る処理を行なうことができる。

30

【0033】

また、プロファイル・エンジン19は、社員ユーザの職種情報や能力情報を分析処理する装置である。図1に示した例では、サービス・サーバ1の依頼に応じて分析処理を行なう別装置として設けてあるが、プロファイル・エンジン19をサービス・サーバ1内に構成するようにしてもよい。

【0034】

サービス・サーバ1は、コンテンツの提供元3と、社員ユーザ及び社員ユーザが所属する企業の教育部門（実際には担当者の端末）4との間でコンテンツ提供に関する仲介サービスを行なう装置である。

【0035】

また、サービス・サーバ1は、コンテンツの提供元3から、提供するコンテンツをMP E G（Moving Picture Experts Group）、PDF（Portable Document Format）などさまざまなファイル記述形式で、磁気テープや、CD、DVDといったさまざまなメディアを媒介として受け取り、電子データ化が必要なものは電子データ化して、コンテンツ・データベース10に登録し、また、コンテンツ提供元3へ、社員ユーザの使用に応じたコンテンツ使用料金を支払い、さらに、コンテンツ・レポートとしてコンテンツ毎の使用ランキング情報を提供する。

40

【0036】

また、サービス・サーバ1は、企業教育部門4から、コンテンツ提供サービスの申し込みを受け付け、その使用に関する社員人数分の基本料金を徴収し、社員ユーザの実際のコ

50

ンテンツ使用に応じたコンテンツ使用料金を徴収し、また、企業教育部門 4 へ、社員ユーザのコンテンツ使用状況に関するログ分析情報を提供する。

【 0 0 3 7 】

また、サービス・サーバ 1 は、社員ユーザ（ユーザ端末）2 から、当該社員ユーザのプロファイル情報を取得し、また、社員ユーザ（ユーザ端末）へ、コンテンツ・リコメンドとして推薦コンテンツの情報一覧を提供し、また、コンテンツの内容（実データ）を提供する。コンテンツ推薦情報の作成方法や提示方法に関しては後述に譲る。

【 0 0 3 8 】

コンテンツ・データベース 10 は、図 2 に示すように、各コンテンツを識別するコンテンツ番号 10 a、コンテンツの名前や内容の概要を含むコンテンツ情報 10 b、コンテンツが対象とするユーザの階層情報 10 c、コンテンツが対象とするユーザの職種情報 10 d、コンテンツが適するユーザの行動特性情報 10 e が対応付けて記録される。

10

【 0 0 3 9 】

また、コンテンツ・データベース 10 は、コンテンツが持つ職種情報との適合性並びに職種毎の適合する能力レベルに従って各コンテンツを管理している。例えば図 3 に示すような「コンテンツ・マップ」を利用して、検索が容易となる形式でコンテンツに関する情報を管理している。同図に示すコンテンツ・マップは、職種毎に行が設けられているとともに、能力属性（*competency*）の能力レベル毎に列が設けられている。そして、コンテンツは、該当するそれぞれの職種の行（軸）で、該当する能力属性における該当する能力レベルのカラムにマッピングされる。勿論、1 つのコンテンツが 2 以上の職種行上にマッピングされることもある。

20

【 0 0 4 0 】

図 3 に示した例では、*job 1*、*job 2*、*job 3* という職種毎に行が設けられ、また、*comp 1*、*comp 2*、*comp 3* という各能力属性について、能力レベル *lev 1*、*lev 2*、*lev 3* 毎に列が設けられている。そして、職種 *job 2* の行では、各能力属性について能力レベルに適合するコンテンツとして、左から順に A、B、C、D、E、F、G、H、I というコンテンツがそれぞれマッピングされている。勿論、同一職種の同一能力属性、同一能力レベルに 2 以上のコンテンツが同時にマッピングされることもある。

【 0 0 4 1 】

このコンテンツ・データベース 10 の記録情報は、コンテンツ提供元 3 から提供される態様であっても、あるいはサービス・サイト 1 において作成する態様であってもよい。いずれにしても、サービス・サーバ 1 が提供するすべてのコンテンツについて、後述するコンテンツ提供サービスの前処理としてコンテンツ・マップ若しくはこれと同等な情報がコンテンツ・データベース 10 に記録される。

30

【 0 0 4 2 】

また、コンテンツ・データベース 10 には各コンテンツの内容（エンティティ）も記録されている。本実施形態では、コンテンツ・エンティティは上記対応付け情報 10 a ~ 10 e のテーブルとは別なデータ集合として、実データ 10 f と対応付け情報テーブルとをコンテンツ番号 10 a をリファレンスとして結び付けた構成としている。

40

【 0 0 4 3 】

なお、比較的大きな記憶容量を要する実データ 10 f は対応付け情報テーブルとは別個なデータベースとして、両者間をリファレンスで結び付けて、対応付け情報テーブルのコンテンツ情報 10 b に該当するコンテンツ実データ 10 f を抽出して社員ユーザに提供できるようにしてもよい。

【 0 0 4 4 】

上述したように、サービス・サーバ 1 が社員ユーザから取得したプロファイル情報は、サービス・サーバ 1 のプロファイル・データベース 11 に蓄積され、この蓄積情報に基づいて、社員ユーザ毎のログ分析情報が企業教育部門 4 に提供される。

【 0 0 4 5 】

50

プロフィール・データベース 11 は、図 4 に示すように、後述するユーザ入力により所得される各ユーザの氏名、階層情報、職種情報などを含むユーザ情報 11a (図 6 を参照のこと)、後述するユーザ入力により所得されるユーザの設問回答情報 11b (図 7 を参照のこと)、後述するプロフィール・エンジン 19 による分析結果情報 11c (図 8 を参照のこと)、後述するユーザへのコンテンツ推薦の履歴情報 11d (図 9 を参照のこと)が、社員ユーザ毎に対応付けて記録される。なお、履歴情報 11d は、推薦したコンテンツの中の、ユーザが学習したコンテンツ (学習対象として選択済みの場合や学習中の場合も含む) の情報であり、一度学習したコンテンツを再推薦しないために使用する。

【0046】

また、ユーザ端末 2 がサービス・サーバ 1 からコンテンツの提供を受けると、サービス・サーバ 1 は提供したコンテンツ毎にその提供履歴をアクセス・データベース 12 に蓄積し、この蓄積情報に基づいて、コンテンツ提供元 3 に提供する各コンテンツ毎のランキング情報を生成し、また、企業教育部門 4 に提供するログ分析情報に含める各社員ユーザ毎のコンテンツ使用状況 (すなわち、学習状況) を作成する。

【0047】

アクセス・データベース 12 は、図 5 に示すように、コンテンツ番号 12a とアクセス履歴 12b とをコンテンツ毎に対応付けて含んでいる。アクセス履歴 12b には、コンテンツを使用した社員ユーザを特定する情報 (氏名など) と、当該社員ユーザによるコンテンツの使用程度などが含まれる。

【0048】

コンテンツ・エンティティをストリーム・データとしてユーザ端末 2 へ提供する場合、コンテンツの使用程度は、例えば社員ユーザによるアクセス時間やビデオのアクセス区間として測ることができる。但し、コンテンツ実データを提供する方法は、コンテンツ実データをユーザ端末 2 にダウンロードさせる方法であってもよく、この場合には、コンテンツへのアクセスの許諾管理をサービス・サーバ 1 で行なうようにすることでアクセス履歴が取得可能となる。

【0049】

図 6 ~ 図 9 にはユーザ端末 2 上でのディスプレイ画面表示を示している。以下では、各図を参照して画面表示に沿いながら、本実施形態に係るコンテンツ推薦システムの処理動作について説明する。

【0050】

ユーザ端末 2 は、ユーザからの操作入力を受け付けるマウスやキーボードからなるユーザ・インターフェースや、サービス・サーバ 1 から提供されるメニュー・ページやコンテンツ一覧ページなどを画面表示するブラウザなどのアプリケーション並びにディスプレイ、ネットワークを介してサービス・サーバ 1 とデータ通信を行なうネットワーク・インターフェースを備えているものとする。

【0051】

また、サービス・サーバ 1 は、ネットワークを介してユーザ端末 2 とデータ通信を行なうネットワーク・インターフェース 13、コンテンツ・データベース 10 からの検索処理を行なう検索エンジン 14 を備えているものとする。

【0052】

社員ユーザがコンテンツの推薦を得ようとする場合には、ユーザ端末 2 によりサービス・サーバ 1 にアクセスして、まず、図 6 に示すようなパーソナル・データ登録ページをサービス・サーバ 1 から取得してユーザ端末 2 の画面に表示する。

【0053】

なお、社員ユーザにはサービス・サーバ 1 へのアクセスについて予め ID やパスワードが付与されており、ユーザ端末 2 によるサービス・サーバ 1 へのアクセスに際して ID やパスワードによる認証がなされる。また、本実施形態では、企業教育部門 4 は、各社員ユーザにその階層や職種などに応じてコンテンツ利用毎に減算されるポイントを付与するようにしている。アクセスしたユーザがこのポイント残量を持たないときには、サービス・

10

20

30

40

50

サーバ 1 がアクセスを拒否するようにして、有料コンテンツを使用した社員教育に要する予算管理をし易くしている。

【 0 0 5 4 】

図示のパーソナル・データ登録ページには、ユーザ情報として、氏名、性別、生年月日などの社員ユーザを特定する情報を入力する欄に加えて、ユーザの階層情報を選択入力する欄 5 1 や、現行の職種を選択入力する欄 5 2 が設けられている。そして、これらの欄に社員ユーザが自己の情報を入力して「入力完了」ボタン 5 3 を押下すると、当該ページに入力された情報がサービス・サーバ 1 に送信される。

【 0 0 5 5 】

このパーソナル・データ登録ページで入力された職種情報は、コンテンツ推薦情報を生成する際に、コンテンツ選別のためのキーとなる。図 1 0 には、本実施形態で使用される職種分類を例示している。 10

【 0 0 5 6 】

サービス・サーバ 1 は、パーソナル・データ登録ページを通してユーザ情報の取得を完了すると、次いで、当該ユーザ端末 2 へ行動・思考特性チェックシート・ページを送信して、ユーザ端末 2 の画面に表示する。

【 0 0 5 7 】

図 7 には、行動・思考特性チェックシート・ページの構成例を示している。図示の行動・思考特性チェックシート・ページには、「おどおどしたことがある」、「気持ちが表面にしやすいほうだ」といったユーザ適性を測るための幾つかの設問が列挙されている。また、各設問に対して「あてはまる」、「どちらでもない」、「あてはまらない」といった回答用のチェックボックスが併設されている。ユーザは、端末画面上で、これら設問に対して社員ユーザがチェックボックスをチェック入力することにより回答する。そして、「入力完了」ボタン 6 2 を押下すると、当該ページに入力された情報がサービス・サーバ 1 に送信される。 20

【 0 0 5 8 】

サービス・サーバ 1 は、上記のようにして社員ユーザから提供された階層情報及び職種情報を含むユーザ情報並びに設問回答情報を受信すると、受信情報をプロファイル・データベース 1 1 のユーザ情報 1 1 a 及び設問回答情報 1 1 b として記録するとともに、受信した設問回答情報をプロファイル・エンジン 1 9 に提供して設問回答に基づいて分析処理を行ない、得られたユーザ・プロファイルの分析結果をプロファイル・データベース 1 1 の分析結果情報 1 1 c に記録する。 30

【 0 0 5 9 】

プロファイル・エンジン 1 9 は、分析処理の結果の 1 つとして、ユーザが持つ能力情報を得る。能力は複数の能力属性からなる。図 1 1 には、能力属性を列挙しているが、図示の例では、能力属性は大分類に大別され、各分類は複数のコンピテンシ指標で構成される。ユーザの能力情報は、能力属性毎にユーザがどれだけの能力を持つかを表した能力レベル値で構成される。

【 0 0 6 0 】

ユーザ・プロファイル分析結果の 1 つとしての能力情報を、コンテンツ・マップ（図 2 を参照のこと）とほぼ同じフォーマットで構成されるコンピテンシ診断テーブルを用いて管理することができる。図 1 2 には、コンピテンシ診断テーブルの構成例を示しているが、職種毎に行が設けられているとともに、能力属性（*competency*）の能力レベル毎に列が設けられている。そして、ユーザの該当する職種の行上で、各能力属性についてユーザの現在の能力レベル値に相当する欄にその旨（図中では「☐」）が記入される。図示の例では、ユーザの職種が *job 2* であり、各能力属性 *comp 1*、*comp 2*、*comp 3* に対してそれぞれ能力レベル値 *lev 1*、*lev 3*、*lev 2* を現在備えている。ユーザの能力情報すなわち能力属性毎に持つ能力レベルは、コンテンツ推薦情報を生成する際に、職種情報とともにコンテンツ選別のためのキーとなる。 40

【 0 0 6 1 】

プロフィール・エンジン 19 による分析結果を回答元のユーザ端末 2 に送信するようにしてもよい。分析結果には、基本分析結果 71、ストレス分析アドバイス 72、キャリア・デザイン・アドバイス 73 といった内容とともに、行動特性分析結果 74 を含んでおり、ユーザ端末 2 は、図 8 に示すように、受信した分析結果を画面表示する。例えば、行動特性分析結果 74 には、「決断力」、「独創性」、「協調性」といったユーザ個人の能力属性（行動特性評価項目）とともに、これら各項目のレベル評価が含まれている。したがって、社員ユーザはこれによって自己の行動特性がどのようなものであるかや、自己の弱点項目は何かなどを直接知ることができる。

【0062】

さらに、サービス・サーバ 1 は、プロフィール・エンジン 19 により得られたユーザ・プロフィール分析結果を検索エンジン 14 に入力して、コンテンツ・データベース 10 の検索処理を実行する。コンテンツの検索処理は、ユーザの職種情報や能力情報をキーにして行なわれる。

【0063】

検索エンジン 14 は、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの能力レベルに相応するものをコンテンツ・データベース 10 で検索する。このコンテンツ検索は、コンテンツ・データベース 10 で管理されているコンテンツ・マップ（図 2 を参照のこと）とユーザに関するコンピテンシ診断テーブル（図 12）を照合することにより、比較的少ない演算量でコンテンツを選別することができる。例えば、コンテンツ・マップ上で、ユーザの職種情報に合致する行（職種軸上）をスキャンし、各能力属性（コンピテンシ）において、ユーザの現在の能力レベル値に相応するカラムにマッピングされているコンテンツを取得する。コンテンツの選別に際し、ユーザの秀でた能力属性に関する能力レベルに相応するものを選び出して、長所を重点的に引き伸ばすようにすることができる。あるいは、ユーザの職種情報に適合するコンテンツのうちユーザの弱点とする能力属性に関する能力レベルに相応するものを選び出して、弱点を重点的に強化するようにすることができる。図 12 に示す例で言えば、職種情報として job 2 を持つ当該ユーザは、lev 3 を持つ能力属性 comp 2 に秀でていることから、職種情報 job 2 で能力属性 comp 2 でより高い能力レベル値に適合するコンテンツを「強みアップ」として位置付けて重点的に選別する。あるいは、当該ユーザは lev 1 を持つ能力属性 comp 1 が弱点であることから、職種 job 2 で、能力属性 comp 1 が現在の能力レベルよりも 1 つだけ高い lev 2 に適合するコンテンツを「弱点補強」として位置付けて選別する。

【0064】

そして、検索エンジン 14 は、入力されたユーザ・プロフィールに適合する職種情報や能力情報が設定されているコンテンツについてのコンテンツ番号 10a 及びコンテンツ情報 10b を抽出する。

【0065】

例えば検索エンジン 14 は、入力されたユーザ・プロフィールの階層情報及び職種情報をキーとしてコンテンツ・データベース 10 を検索し、社員ユーザから入力された情報に合致する階層情報 10c 及び職種情報 10d が設定されているコンテンツ番号 10a 及びコンテンツ情報 10b を抽出する。さらに、この抽出されたコンテンツが複数ある場合には、検索エンジン 14 は、行動特性情報 10e に設定されている各項目と分析結果 74 の各項目とを比較して、抽出したコンテンツ情報を分析結果として弱い行動特性順に順序付けする。ここで、行動特性分析結果 74 として「観察力」、「読解力」、「計画力」が弱い場合には、データベース 10 のコンピテンシ情報 10e にこれら 3 つの項目「観察力」、「読解力」、「計画力」が設定されているもの、これらのうち 2 つの項目が設定されているもの、これらのうち 1 つの項目が設定されているものといったように順序付けする。したがって、社員ユーザを分析して行動特性として弱い部分を発見し、当該弱い部分を増強させるに役立つコンテンツを優先順序付けして当該社員ユーザに推薦することができる。

【0066】

10

20

30

40

50

また、検索エンジン 14 は、入力されたユーザ・プロフィールに適合する職種情報や能力情報が設定されているコンテンツを出力する際に、コンテンツと対象ユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に応じた推薦度を付与する。図 13 には、コンテンツ・マップを利用して適合するコンテンツを検索するとともに推薦度を付与するための処理手順をフローチャートの形式で示している。

【0067】

まず、コンテンツ・マップ内で、対象となっているユーザの職種軸上にマップされているコンテンツがあるかどうかをチェックする（ステップ S1）。ここで、該当するコンテンツが存在しない場合には、順位なし、すなわち推薦順位がゼロとして値を返す。

【0068】

コンテンツ・マップ内で、ユーザの職種軸上にコンテンツがマッピングされている場合には、さらに職種軸上で能力属性（コンピテンシ）毎に、ユーザの現在の能力レベルよりも +1 だけ高い能力レベルを示すカラムにマッピングされているコンテンツがあるかどうかをチェックする（ステップ S2）。

【0069】

ここで、いずれの能力属性においても、ユーザの現在の能力レベルに +1 だけ高いカラムにマッピングされているコンテンツが存在しない場合には、次いで、ユーザの現在の能力レベルよりも +2 だけ高い能力レベルを示すカラムにマッピングされているコンテンツがあるかどうかをチェックする（ステップ S3）。ここで、該当するコンテンツがある場合には、ユーザの現在の能力レベルが 0（最低レベル）を示す場合には当該コンテンツの推薦順位を 5 とし、ユーザの能力レベルが 0 よりも高い場合には当該コンテンツの推薦順位を 4 とする（ステップ S5）。

【0070】

また、いずれの能力属性においても、ユーザの現在の能力レベルに +1 だけ高いカラムにマッピングされているコンテンツが存在しない場合には、次いで、ユーザの現在の能力レベルよりも +2 だけ高い能力レベルを示すカラムにマッピングされているコンテンツがあるかどうかをチェックする（ステップ S4）。該当するコンテンツがある場合には、当該コンテンツの推薦順位を 6 とし、それ以外の場合は推薦順位を 7 とする。

【0071】

一方、いずれの能力属性においても、ユーザの現在の能力レベルに +1 だけ高いカラムにマッピングされているコンテンツが存在するとき、さらにユーザの現在の能力レベルが 0（最低レベル）を示す場合には、当該コンテンツの推薦順位を 2 とし、以降はユーザの弱点補強用のコンテンツとして位置付ける（ステップ S6）。また、ユーザの現在の能力レベルが 0 よりも高い場合には、ユーザの能力レベルが 2 であるかどうかを判別する（ステップ S7）。ユーザの能力レベルが 2 の場合には、当該コンテンツの推薦順位を 1 とし、以降はユーザの長所強化用のコンテンツとして位置付ける。また、ユーザの能力レベルが 2 以外の場合には、推薦順位を 3 とし、以降は普通に薦めるコンテンツとして位置付ける。

【0072】

能力レベルをレベル 0 ~ 3 の 4 段階で表す場合、例えば推薦度 = $100 - (\text{推薦順位} - 1) \times 15$ という計算式で推薦度を求める。また、上死が推薦するコンテンツにはさらに 100 を加算する。

【0073】

そして、サービス・サーバ 1 は、検索エンジン 14 による検索結果として得られたコンテンツ情報 10b を優先順序に従った配列で一覧ページを作成する。一覧ページには、各コンテンツ番号又はコンテンツを引き出すための URL (Uniform Resource Locator) などからなるアンカーが含まれている。一覧ページはユーザ端末 2 へ送信され、ブラウザ画面上では推薦コンテンツ一覧として表示される。図 9 には、推薦コンテンツ一覧からなるコンテンツ推薦情報の提示画面構成例を示している。推薦コンテンツ一覧には、検索された各コンテンツの項目 81 がそのコンテンツ名 82 とコンテン

10

20

30

40

50

ツ内容の概要 8 3 を含んで優先順序に従って表示されている。また、各コンテンツ項目 8 1 にはチェックボックス 8 5 が設けられており、社員ユーザが閲覧使用を望むコンテンツのチェックボックス 8 5 にチェック入力して「申込み」ボタン 8 6 を押下すると、当該チェック入力により選択されたコンテンツ番号がサービス・サーバ 1 に送信される。

【 0 0 7 4 】

本実施形態に係るコンテンツ推薦情報の提示において特徴的なのは、検索されたコンテンツと対象ユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に依拠して付与された推薦度に従って、コンテンツを強弱表示しているという点である。すなわち、推薦度のより高いコンテンツに対して強調表示が施される。

【 0 0 7 5 】

図 9 に示す例では、さらに推薦コンテンツ一覧ページ上では、参照番号 8 7 で示すように、能力に適合したもの、強みをアップするもの、弱点を補強するもの、上司が推薦したものなどが強調表示され、これらを複合で表示している。また、推薦度に相当するオススメ度が指標値として併せて表示されている。

【 0 0 7 6 】

例えば、ユーザのコンピテンシ A に関する能力がレベル 0 である場合には、コンピテンシ A に関してレベル 1 に適合するコンテンツを「弱点補強コンテンツ」として表示する。また、ユーザのコンピテンシ B に関する能力がレベル 1 の場合には、コンピテンシ B に関してレベル 2 に適合するコンテンツを「能力適合コンテンツ」として表示する。また、ユーザのコンピテンシ C に関する能力がレベル 2 の場合には、コンピテンシ C に関してレベル 3 に適合するコンテンツを「強みアップ・コンテンツ」として表示する。また、一覧ページ画面上で、オススメ度順にソートしたり、フィルタリングして表示したりすることもできる。

【 0 0 7 7 】

なお、推薦コンテンツ一覧には、検索された各コンテンツの項目がそのコンテンツ名とコンテンツ内容の概要を含んで、優先順序に従って表示されている。また、各コンテンツ項目には「詳細」ボタン 8 4 が設けられており、この詳細ボタンを押下することにより、該当するコンテンツについてのさらに詳しい概要を画面表示させることが可能となっている。

【 0 0 7 8 】

また、各コンテンツ項目にはチェックボックスが設けられており、社員ユーザが閲覧使用を望むコンテンツのチェックボックスにチェック入力して「申込み」ボタン 8 6 を押下すると、当該チェック入力により選択されたコンテンツ番号がサービス・サーバ 1 に送信される。

【 0 0 7 9 】

このようにしてサービス・サーバ 1 が申込みを受信すると、図にはない個人毎の学習コンテンツを一覧表示した画面（以下、「学習マイページ」と呼ぶ）にこれらのコンテンツを追加してユーザ端末 2 へ送信する。学習マイページ（図示しない）には、学習対象として選択したコンテンツのリストと各コンテンツに対応した学習開始ボタンがあり、学習開始ボタンを押下するとサービス・サーバ 1 にコンテンツ番号を含む実データの送信要求が送信される。

【 0 0 8 0 】

サービス・サーバ 1 がこのような実データの送信要求を受信すると、コンテンツ番号に基づいて該当するコンテンツ・エンティティ 1 0 f をコンテンツ・データベース 1 0 から検索し、当該コンテンツ・エンティティを要求元のユーザ端末 2 へ例えばストリーム形式で送信する。これにより、社員ユーザは提供されたコンテンツをユーザ端末 2 に画面表示して、スキルアップ学習などに利用することができる。

【 0 0 8 1 】

図 9 に示したようなコンテンツ推薦情報の提示画面では、検索されたコンテンツと対象ユーザの職種情報並びに能力情報との適合性に依拠して付与された推薦度に従って、各コン

10

20

30

40

50

テンツの強弱表示が行なわれる。すなわち、コンテンツを推薦する表示画面上では、コンテンツの属性表示の中にユーザ自身のプロフィールに特化した（差別化された）ものを提示する項目が配設されている。ユーザが見るべきコンテンツ、見た方がよいコンテンツを差別化して表示することにより、コンテンツを視聴する際の視聴態度にも差別化意識をユーザに与えることができ、コンテンツ視聴による効果を高めることができる。

【 0 0 8 2 】

[追 補]

以上、特定の実施形態を参照しながら、本発明について詳解してきた。しかしながら、本発明の要旨を逸脱しない範囲で当業者が該実施形態の修正や代用を成し得ることは自明である。すなわち、例示という形態で本発明を開示してきたのであり、本明細書の記載内容を限定的に解釈するべきではない。本発明の要旨を判断するためには、冒頭に記載した特許請求の範囲の欄を参酌すべきである。

10

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 8 3 】

【 図 1 】 図 1 は、本発明の一実施形態に係るコンテンツ推薦システムの構成を模式的に示した図である。

【 図 2 】 図 2 は、コンテンツ・データベースの構成を模式的に示した図である。

【 図 3 】 図 3 は、コンテンツ・マップの構成を模式的に示した図である。

【 図 4 】 図 4 は、プロフィール・データベースの構成を模式的に示した図である。

【 図 5 】 図 5 は、アクセス・データベースの構成を模式的に示した図である。

20

【 図 6 】 図 6 は、ユーザ情報を入力するためのパーソナル・データ登録ページの画面構成を模式的に示した図である。

【 図 7 】 図 7 は、ユーザの設問回答情報を提示した行動・思考特性チェックシート・ページの画面構成を模式的に示した図である。

【 図 8 】 図 8 は、プロフィール・エンジンによる分析結果情報の画面構成を模式的に示した図である。

【 図 9 】 図 9 は、推薦コンテンツ一覧からなるコンテンツ推薦情報の提示画面構成例を示した図である。

【 図 1 0 】 図 1 0 は、職種分類の一例を示した図である。

【 図 1 1 】 図 1 1 は、能力属性を示した図である。

30

【 図 1 2 】 図 1 2 は、コンピテンシ診断テーブルの構成例を示した図である。

【 図 1 3 】 図 1 3 は、コンテンツ・マップを利用して適合するコンテンツを検索するとともに推薦度を付与するための処理手順を示したフローチャートである。

【 符号の説明 】

【 0 0 8 4 】

1 ... サービス・サーバ

2 ... ユーザ端末（社員ユーザ）

3 ... コンテンツ提供元

4 ... 企業内教育部門

1 0 ... コンテンツ・データベース

40

1 1 ... プロファイル・データベース

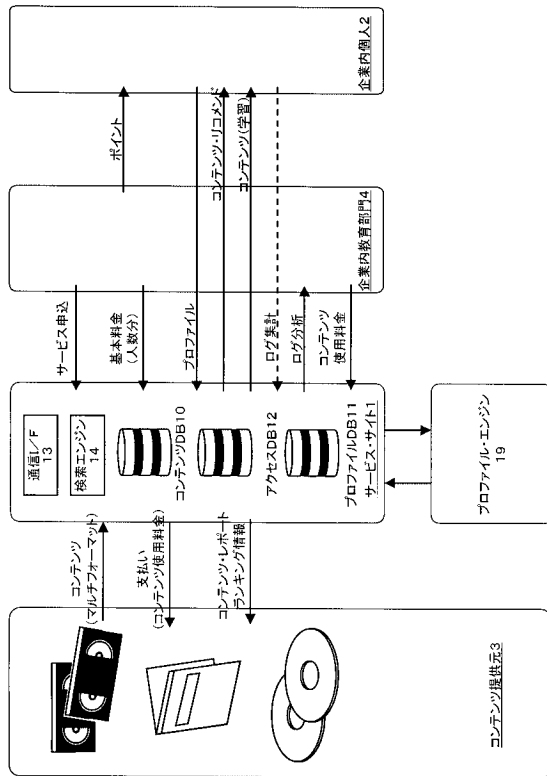
1 2 ... アクセス・データベース

1 3 ... 通信インターフェース

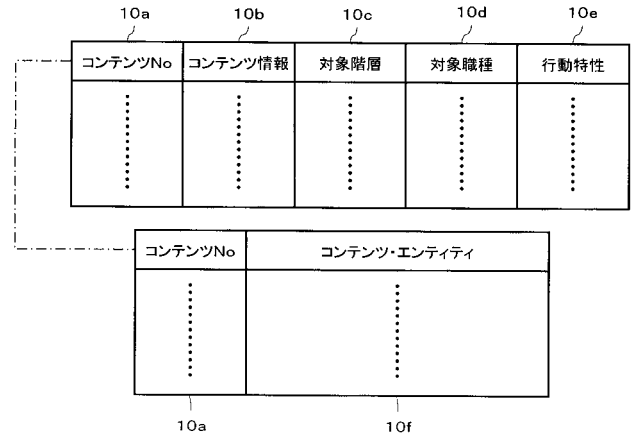
1 4 ... 検索エンジン

1 9 ... プロファイル・エンジン

【図 1】



【図 2】



【図 3】

	comp1			comp2			comp3		
	lev1	lev2	lev3	lev1	lev2	lev3	lev1	lev2	lev3
job1									
job2	A	B	C	D	E	F	G	H	I
job3									

【図 4】

11a	11b	11c	11d
ユーザ情報	設問回答	分析結果	推薦履歴
...

【図 5】

12a	12b
コンテンツNo	アクセス履歴
...	...

【図 6】

パーソナル・データ登録

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

ユーザ情報

フリガナ

氏名

e-mail

性別 男性○ 女性○

生年月日

血液型

入社年度

階層選択 51

所属部門 ●所属事業部名
●所属課名

役職

現行役職 ●大分類
●小分類 52

プライバシー・ポリシーについて

入力完了>> 53

【図 7】

行動・思考特性チェックシート

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

	あてはまる	どちらでもない	あてはまらない
1. 言いたいことは遠慮なく言うほうだ	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 落ち込んでいる人を見るとおどおどおけないたちだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
3. おどおどしたところがある	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 思い立ったらすぐ実行に移さずにはいられないたちだ	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 気持ちが表面にしやすいほうだ	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 疑問点は明らかにしないと気が済まない	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 自己主張するのが苦手だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
8. 自分の意見を人に押し付けることがある	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 人に対して厳しいほうだ	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 冗談を言ったりふざけることが多い	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

入力完了>> 62 61

【図 8】

ネットオリオ

基本分析結果

5次元性格診断

あなたの現在の社会価値は「イタ」です。

あなたの性格タイプは「イタ」です。

行動特性分析

行動特性	強み	弱み
行動力	高い	低い
実行力	高い	低い
計画性	低い	高い
柔軟性	高い	低い
協調性	低い	高い
責任感	高い	低い
誠実さ	高い	低い
忍耐性	低い	高い
決断力	高い	低い
創造性	高い	低い
リーダーシップ	高い	低い

【図 9】

推薦コンテンツ一覧

コンテンツ名: × × × × × 82

概要: 83

強みアップ 推奨度: 100 85

詳細 84

コンテンツ名: × × × × ×

概要: 81

弱みA補強 推奨度: 85

詳細

コンテンツ名: × × × × ×

概要: 87

ボスー押し 推奨度: 100

詳細

コンテンツ名: × × × × ×

概要: 86

能力B適合 推奨度: 70

詳細

コンテンツ名: × × × × ×

概要: 86

強C ポス 推奨度: 200

詳細

申込み 86 次ページ

【図 10】

コンピテンシー指標解説

各項目の解説は、コンピテンシーモデルを参照し、各項目の具体的な行動目標を定める。

コンピテンシー指標

大分類	コンピテンシー指標	解説
自己管理	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキルは、自己管理の基礎となる。相手の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	自己管理能力	自己管理能力は、自己管理の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	自己管理能力	自己管理能力は、自己管理の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	自己管理能力	自己管理能力は、自己管理の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
他者管理	他者管理能力	他者管理能力は、他者管理の基礎となる。相手の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	他者管理能力	他者管理能力は、他者管理の基礎となる。相手の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	他者管理能力	他者管理能力は、他者管理の基礎となる。相手の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	他者管理能力	他者管理能力は、他者管理の基礎となる。相手の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
実行(今日的)	実行力	実行力は、実行の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	実行力	実行力は、実行の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	実行力	実行力は、実行の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	実行力	実行力は、実行の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
技術・機能	技術力	技術力は、技術の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	技術力	技術力は、技術の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	技術力	技術力は、技術の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	技術力	技術力は、技術の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
事業・顧客	事業力	事業力は、事業の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	事業力	事業力は、事業の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	事業力	事業力は、事業の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	事業力	事業力は、事業の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
創造(将来的)	創造力	創造力は、創造の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	創造力	創造力は、創造の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	創造力	創造力は、創造の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。
	創造力	創造力は、創造の基礎となる。自分の感情やニーズを理解し、適切な対応を行うことが求められる。

【図 1 1】

職種	
大分類	小分類
管理全般	経営者 管理職
企画	経営企画 事業企画 商品企画 技術企画
法務	法務
経理・財務・予算	経理 財務
人事・労務・教育	人事 労務 教育
総務・秘書	総務 事務 秘書
広報・宣伝	広報 宣伝
情報システム	コンサルティングエンジニア セールスエンジニア ネットワークエンジニア カスタマーエンジニア
営業	国内営業 海外営業 法人営業 個人向け営業 ルート営業 新規営業 外勤営業 内勤営業 物販営業 提案型営業
販売・サービス	販売・サービス カスタマーサポート
貿易・海外業務	貿易・海外業務
資材・購買・物流・工程管理	資材・購買・物流・工程管理
生産技術・生産管理	生産技術 生産管理
製品開発・設計	製品開発・設計 システム開発・設計 サービス開発・設計 デザイン開発・設計
研究・開発	基礎研究 応用研究 材料開発 技術開発
製造	製造

【図 1 2】

	comp1			comp2			comp3		
	lev1	lev2	lev3	lev1	lev2	lev3	lev1	lev2	lev3
job1									
job2	○					○		○	
job3									

【図 1 3】

